

麻酔・蘇生学

1 構成員

	平成17年3月31日現在
教授	1人
助教授	1人
講師（うち病院籍）	1人（1人）
助手（うち病院籍）	6人（3人）
医員	7人
研修医	1人
特別研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	4人（0人）
研究生	2人
外国人客員研究員	0人
技術職員（教務職員を含む）	1人
その他（技術補佐員等）	1人
合 計	25人

2 教官の異動状況

佐藤 重仁（教授）	（H10. 4. 1～現職）
加藤 孝澄（助教授）	（H15. 10. 1～現職）
中島 芳樹（講師）	（H16. 1. 1～現職）
望月 利昭（助手）	（H15. 5. 1～現職）
五十嵐 寛（講師流用の助手）	（H11. 7. 1～現職）
寺田 和弘（助手）	（H14. 10. 1～現職）
岩本 竜明（助手）	（H10. 4. 1～現職）
栗田忠代士（助手）	（H10. 4. 1～現職）
鈴木 明（助手）	（H11. 11. 1～現職）

3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成16年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	6編（1編）
そのインパクトファクターの合計	14.09
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	3編（3編）
そのインパクトファクターの合計	0
(4) 著書数（うち邦文のもの）	3編（3編）

(5) 症例報告数 (うち邦文のもの)	3編 (3編)
そのインパクトファクターの合計	0

(1) 原著論文 (当該教室所属の者に下線)

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Jiang X, Shi E, Nakajima Y, Sato S : Inducible nitric oxide synthase mediates delayed cardioprotection induced by morphine in vivo. *Anesthesiology* 101 : 82-88, 2004.
2. Kurita T, Kazama T, Morita K, Fujii S, Uraoka M, Takata K, Sato S : Influence of fluid infusion associated with high-volume blood loss on plasma propofol concentrations. *Anesthesiology* 100 : 871-878, 2004.
3. 望月利昭, 土井松幸, 藤井俊輔, 佐野秀樹, 中川智永子, 鳥居英文, 金丸哲也, 佐藤重仁 : 集中治療部における当直医師仕事量の調査 日集中医誌11 : 429-432, 2004.

インパクトファクターの小計 [7.01]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Kikura M, Takada T, Sato S : Age-and sex-specific incidence, risk, and latency period of a perioperative acute thromboembolism syndrome (PATS). *Thromb. Haemost.* 91 : 725-732,2004.
2. Kikura M, Morita K, Sato S : Pharmacokinetics and a simulation model of colforsin daropate, new forskolin derivative inotropic vasodilator, inpatients undergoing coronary artery bypass grafting. *Pharmacol. Res.* 49 : 275-281,2004.
3. Fujii S, Kikura M, Takada T, Katoh S, Aoyama N, Sato S : A noninvasive partial carbon dioxide rebreathing technique for measurement of pulmonary capillary blood flow is also a useful oxygenation monitor during one-lung ventilation. *J. Clin. Anesth.* 16 : 347-352,2004.

インパクトファクターの小計 [7.08]

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 五十嵐 寛, 佐藤重仁 : 第一章 総論 リスクマネジメントとは 精神看護エクスペール 1.リスクマネジメント 2-14, 2004.
2. 五十嵐 寛, 中島芳樹, 森田耕司, 佐藤重仁 : 日本臨床麻酔学会第23回大会高機能患者シミュレータ・ワークショップ スパーローテートに備えて 日臨麻会誌24 : 340-345, 2004.
3. 寺田和弘, 金丸哲也, 尾藤博道, 加藤孝澄, 佐藤重仁 : 頸部ジストニアの治療計画 日本ペインクリニック学会誌11 : 27, 2004.

インパクトファクターの小計 [0]

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 加藤孝澄 : 5-C 吸入麻酔薬 麻酔科学スタンダード III基礎 232-245, 2004.
2. 栗田忠代士 : V周術期患者管理1. インフォームド・コンセント 役に立つ手術室ハンドブック

ク — 手術患者に最良の医療を提供するために — 180-183, 2004.

3. 佐藤重仁：心肺蘇生と脳保護 専門医のための麻酔科学レビュー2004 — 最新主要文献集 — 204-210, 2004.

(5) 症例報告

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Aoyama N, Kikura M, Takada T, Katoh S, Fujii S, Obata Y, Sato S : Ventricular tachycardia occurred in a hypothermic patient during emergence from general anesthesia. 循環制御 25 : 393-396, 2004.
2. 木倉陸人, 高田知季, 加藤 茂, 鳥居英文, 藤本久実子, 西野淳子, 鈴木かつみ, 川久保篤, 平野和宏, 佐藤重仁 : 周術期の動静脈血栓・塞栓症と硬膜外・脊椎麻酔 日本ペインクリニック学会誌4 : 484, 2004.
3. 木倉陸人, 高田知季, 加藤 茂, 鳥居英文, 藤本久実子, 西野淳子, 鈴木かつみ, 佐藤重仁 : 硬膜外麻酔, 脊椎麻酔を併用した全身麻酔と術後の動静脈血栓塞栓症の発生頻度 日本ペインクリニック学会誌3 : 285, 2004

インパクトファクターの小計 [0]

4 特許等の出願状況

	平成16年度
特許取得数 (出願中含む)	1件

1. 特許第3625294号「ビジュアル聴診器, その画像表示方法および画像表示プログラム」

5 医学研究費取得状況

	平成16年度
(1) 文部科学省科学研究費	2件 (90万円)
(2) 厚生科学研究費	0件 (0万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 (0万円)
(4) 財団助成金	0件 (0万円)
(5) 受託研究または共同研究	4件 (440.5万円)
(6) 奨学寄附金その他 (民間より)	8件 (380万円)

(1) 文部科学省科学研究費

1. 加藤孝澄 (代表者) 基盤研究 (C) (2) 「脊髄での揮発性麻酔薬の麻酔作用における一酸化窒素 cGMP系の役割に関する研究」50万円 (継続)
2. 鈴木 明 (代表者) 奨励研究 (A) 「摘出微小血管を用いた空気塞栓モデルによる血管内ガス, 血管壁間の接着力の検討」40万円 (継続)

(5) 受託研究または共同研究

丸石製薬「MR8A2 (塩酸レボブピバカイン注) の持続硬膜外麻酔による術後鎮痛に関する第Ⅲ相

臨床試験」246万円

丸石製薬「MR8A2（塩酸レボピバカイン注）の硬膜外麻酔における第III相臨床試験」147.6万円

丸石製薬「MR8A2（塩酸レボピバカイン注）プレフィルドシリンジ製剤の有用性に関する試験的研究」26.9万円

アストラゼネカ「アナペイン注市販後調査」20万円

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	2件
(2) シンポジウム発表数	0件	1件
(3) 学会座長回数	2件	4件
(4) 学会開催回数	0件	0件
(5) 学会役員等回数	0件	14件
(6) 一般演題発表数	12件	

(1) 国際学会等開催・参加

4) 国際学会・会議等での座長

佐藤重仁 11th International Pain clinic World Society of Pain Clinicians 東京 7月 (3件)

佐藤重仁 9th International Congress of Cardiothoracic and Vascular Anesthesia 東京 9月

5) 一般発表

口頭発表／ポスター発表

1. Katoh T, Kobayashi S, Makino H, Sato S : Middle latency auditory evoked potential monitoring during electroconvulsive therapy under propofol anesthesia. 2004 Annual Meeting The 13th World Congress of Anaesthesiologists, March 2004, Paris
2. Kobayashi S, Bito, Katoh T, Sato S : Effect of xenon on catecholamine and hemodynamic responses to surgical noxious stimulation in human. 2004 Annual Meeting The 13th World Congress of Anaesthesiologists, April 2004, Paris
3. Makino H, Sanjo Y, Katoh T, Sato S : A realtime three-dimensional breath sound color visualization monitor. 2004 Annual Meeting The 13th World Congress of Anaesthesiologists, April 2004, Paris
4. Nakajima Y, Duranteau J, Vicaut E, Sato S : Effects of vasopressors on intestinal microcirculation during endotoxemia. 2004 Annual Meeting The 13th World Congress of Anaesthesiologists, April 2004, Paris
5. Kikura M, Kawakubo A, Hirano K, Morita K, Sato S : Pharmacokinetics and a simulation model of colforsin daropate, new forskolin derivative inotropic vasodilator, in patients undergoing coronary artery bypass grafting. 9th International Congress of Cardiothoracic and Vascular Anesthesia, September 2004, Tokyo
6. Katoh T, Makino H, Sato S : Handheld tesla meter confirmation of tracheal tube place-

- ment. 2004 Annual Meeting The American Society of Anesthesiologists (ASA), October 2004, Las Vegas
7. Kobayashi S, Katoh T, Bito H, Sato S : Bispectral index™ of patients under xenon and sevoflurane combination anesthesia. 2004 Annual Meeting The American Society of Anesthesiologists (ASA), October 2004, Las Vegas
 8. Makino H, Katoh T, Sato S : Detection of esophageal intubation using portable ultrasonography (SonoSite 180 PLUS). 2004 Annual Meeting The American Society of Anesthesiologists (ASA), October 2004, Las Vegas
 9. Makino H, Sanjo Y, Katoh T, Sato S : Description of a heart condition by three-dimensional visualization of cardiac murmur using a "visual stethoscope". 2004 Annual Meeting The American Society of Anesthesiologists (ASA), October 2004, Las Vegas
 10. Mochizuki T, Sato S, Yue H : The effect of respiratory alkalosis on the recovery of heart rate from bupivacaine or levobupivacaine-induced toxicity, using isolated hearts in rats. 2004 Annual Meeting The American Society of Anesthesiologists (ASA), October 2004, Las Vegas
 11. Suzuki A, Eckmann DM : Platelets contribute to gas embolism adhesion to microvascular endothelium. 2004 Annual Meeting The American Society of Anesthesiologists (ASA), October 2004, Las Vegas
 12. Nakajima Y, Satomoto M, Sato S : The effects of vasopressors and L-arginine on intestinal microcirculation during endotoxemia. The 4th Kyungpook-Hamamatsu Joint Medical Symposium(KHJS), December 2004, Hamamatsu

(2) 国内学会の開催・参加

2) 学会における特別講演・招待講演

佐藤重仁：虚血再灌流における一酸化窒素（NO）の役割，第24回岡山麻酔・蘇生セミナー7月，岡山

佐藤重仁：蘇生法の最新の知見と中毒，羽島救急カンファランス，11月，羽島郡

3) シンポジウム発表

中島芳樹：「Developing Country の安全な麻酔医療に於ける日本麻酔科学会の役割-過去と未来」西チモールの医療援助，第51回日本麻酔科学会，5月，名古屋

4) 座長をした学会名

佐藤重仁 第51回日本麻酔科学会

佐藤重仁 第35回日本心臓血管外科学会学術総会

佐藤重仁 第32回日本集中治療医学会総会

金丸哲也 第38回日本ペインクリニック学会

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

- 佐藤重仁 日本心臓血管麻酔学会 理事
- 佐藤重仁 日本麻酔・薬理学会 理事
- 佐藤重仁 日本麻酔科学会東海・北陸支部東海地区支部理事
- 佐藤重仁 日本麻酔科学会 代議員
- 佐藤重仁 日本臨床麻酔学会 評議員
- 佐藤重仁 日本局所麻酔学会 評議員
- 佐藤重仁 日本ペインクリニック学会 評議員
- 佐藤重仁 日本循環制御医学会 評議員
- 佐藤重仁 日本NO学会 評議員
- 佐藤重仁 日本蘇生学会 評議員
- 佐藤重仁 日本集中治療医学会 評議員
- 佐藤重仁 日本臨床モニター学会 評議員
- 佐藤重仁 日本麻酔学科会国際交流専門部会 部長
- 加藤孝澄 日本ペインクリニック学会東海地方会 評議員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0件	0件

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー

- 1回 Journal of Anesthesia（日本）
- 1回 Anesthesia and Analgesia（米国）

9 共同研究の実施状況

	平成16年度
(1) 国際共同研究	1件
(2) 国内共同研究	0件
(3) 学内共同研究	1件

(1) 国際共同研究

1. 「空気塞栓症の予防・治療法に関する研究」ペンシルバニア大学（米国）2004/7/1 2006/6/30（研究者の派遣）派遣先のグラント

(3) 学内共同研究

1. 山本清二（光量子医学研究センター）マウスエンドトキシシンショックにおける腸管絨毛微小血管に与える各種薬剤の影響の研究

10 産学共同研究

	平成16年度
産学共同研究	1件

1. テルモ株式会社「新しい中心静脈カテーテルの開発」

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 昨年の研究を発展させ、心音をモニター上に3次元可視化する装置を作成した。
2. RSDモデルの作成は順調で、従来のスタンダードモデルとされてきたChangのモデルより純粋な形、より臨床に近い形のモデルが完成しつつある。
3. 虚血際還流障害におけるi-NOSの発現がモルヒネの心筋保護効果に相乗的に関与していることを報告し、またCOX2も虚血際還流ごの心筋保護作用に働いていることを研究した。

13 この期間中の特筆すべき業績、新技術の開発

これにより、例えば弁膜症患者の心雑音を手術前後でプリントし、患者と情報を共有するという画期的なことが可能になる。また遠隔医療の補助装置としては無論、聴力障害を有する医師にも朗報となるであろう。

14 研究の独創性、国際性、継続性、応用性

1. 上記のモニターが実用化されれば当然世界中で使用されることになる。この研究はアメリカ麻酔学会での発表で地元ラジオ局からのインタビューを受けるほど注目された。